

- 耐震化推進のための地震防災マップの整備に関する調査検討 -

地震ハザードマップの例（東京都、横浜市）

平成 16 年 2 月 20 日
内閣府（防災担当）

東京都「地域危険度図」

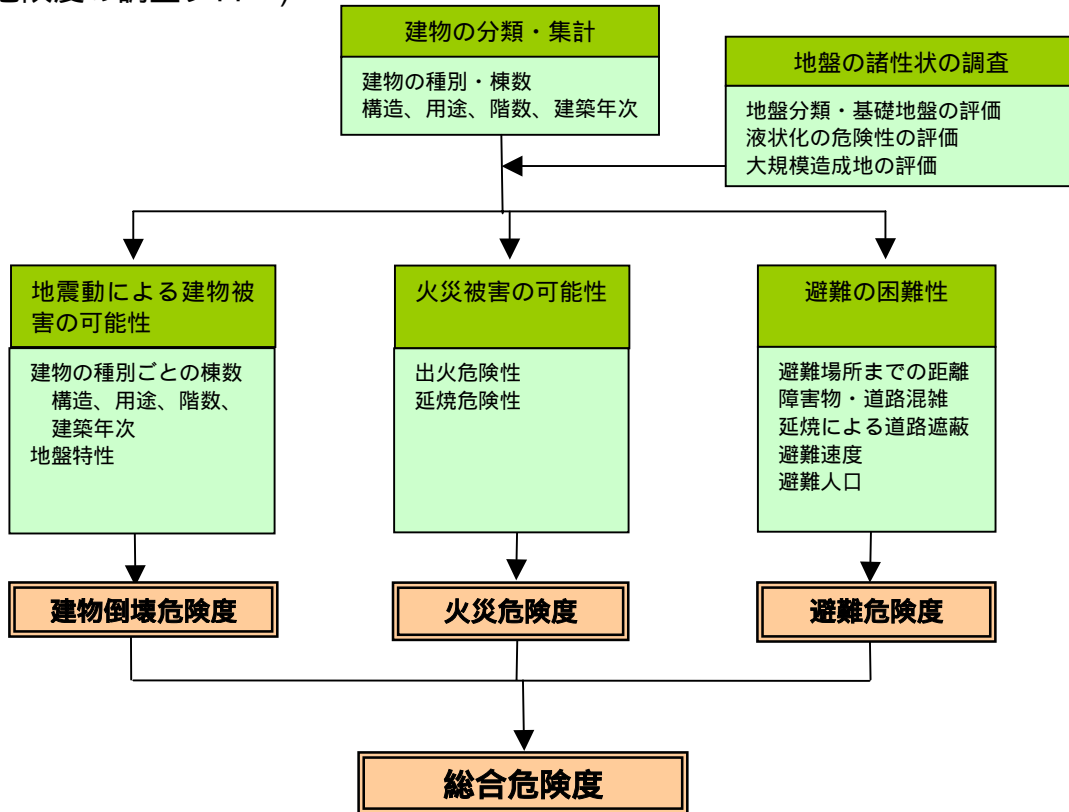
(概要)

その町丁目の危険性を、建物被害、火災被害、避難困難性から5段階のランクで評価する「地域危険度」を算定。それを表した危険度マップを作成し、住民の防災への関心を高めるようとしている。

(地域危険度)

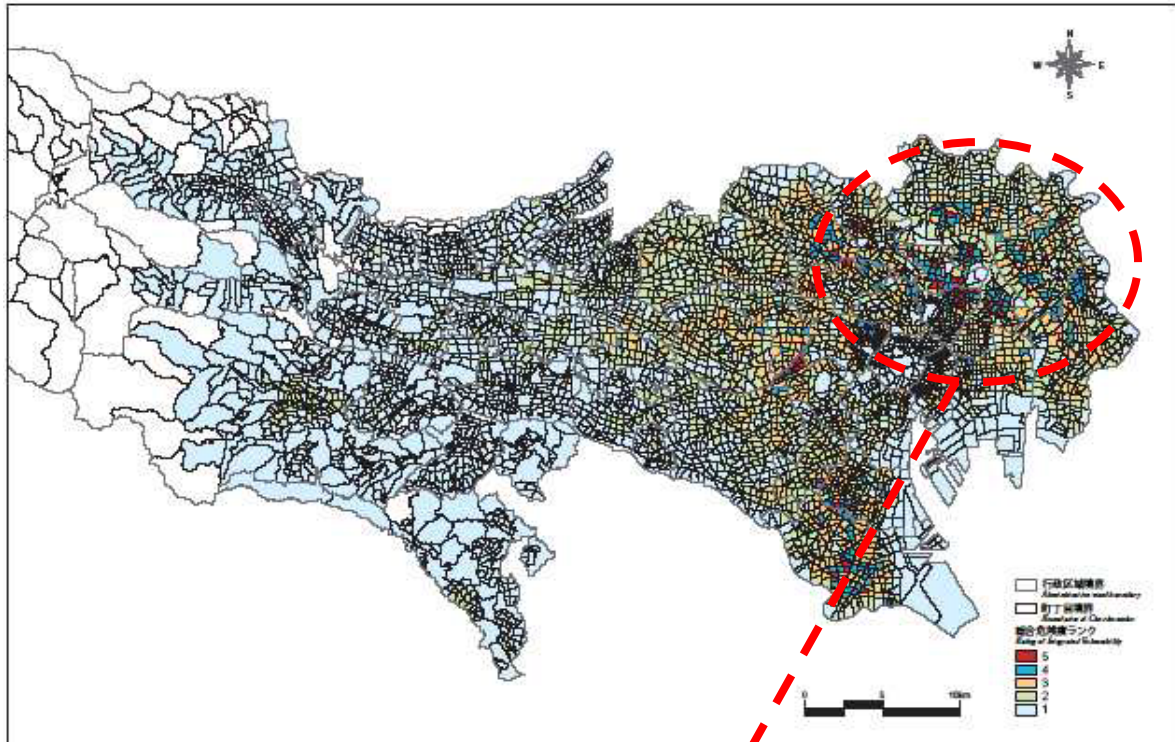
| | |
|---------|---|
| 建物倒壊危険度 | 地震動によって建物が壊れたり傾いたりする危険性の度合を評価したもの。 |
| 火災危険度 | 地震による出火の起こりやすさと、それによる延焼の危険性を測定して、火災の危険性の度合を評価したもの。 |
| 避難危険度 | 避難場所に到達するまでに要する時間と、避難する人の数を組み合わせて評価したもの。 |
| 総合危険度 | 上記の3つの危険度を合算し、1つの指標で分かりやすく表したもの。住民に、防災に対する危険性を理解し、関心を高めてもらうために作成。 |

(地域危険度の調査フロー)



(出典「地震に関する地域危険度測定調査」(東京都))

総合危険度のマップ



荒川近辺
の危険度
の詳細



(出典「地震に関する地域危険度測定調査」(東京都))

横浜市「地震マップ」

(概要)

- ・ 「地震基盤」と呼ばれる地下深部にある固い岩盤の層を把握し、地域ごとの地震の揺れを高い精度で予測する調査を実施。
- ・ その調査に基づき、南関東地震などの想定地震による、50m 四方を最小単位として色分けした「地震マップ」を作成。
- ・ 今後、「地震マップ」により、市民の防災意識の高揚を図っていくとともに、木造住宅耐震改修の促進などの防災対策を推進していく予定

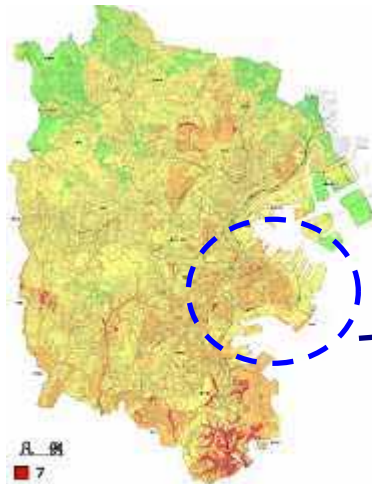
(想定している地震)

- ・ 南関東地震
- ・ 東海地震
- ・ 横浜市直下の地震
- ・ 神縄・国府津 - 松田断層帯地震 (その1)
- ・ 神縄・国府津 - 松田断層帯地震 (その2)

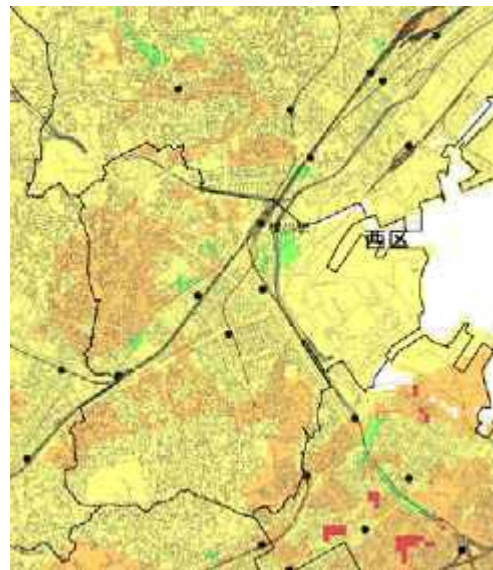
想定地震ごとに地震マップを作成している。

(地震マップ例 (南関東地震))

市内全体の震度分布



市内北東部の詳細な震度分布



詳細

50m 四方という詳細な単位で地震分布がわかる。

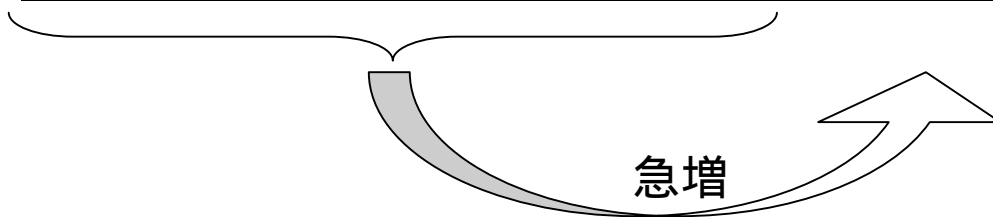
(出典 横浜市ホームページ http://www.city.yokohama.jp/me/bousai/jisin_map.html)

横浜市地震マップの効果

横浜市では、平成13年8月に地震マップを発行して以降、木造住宅耐震診断の件数、木造住宅耐震改修申請件数が急増している。

木造住宅耐震診断件数

| 平成10年 | 平成11年 | 平成12年 | 平成13年 |
|-------|-------|-------|-------|
| 1,079 | 937 | 950 | 1,800 |



木造住宅耐震改修申請件数

| 平成11年 | 平成12年 | 平成13年 |
|-------|-------|-------|
| 32 | 70 | 137 |

